

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第2集

市内遺跡発掘調査報告書1990

1991. 3

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第2集

市内遺跡発掘調査報告書1990

1991. 3

佐久市教育委員会

例　　言

1 本書は、平成2年度国庫補助事業、市内遺跡発掘調査事業にともなう埋蔵文化財の調査報告書である。

2 事務局及び調査團の構成

(事務局) 佐久市教育委員会埋蔵文化財課・佐久埋蔵文化財調査センター

教　育　長　大井季夫　教　育　次　長　小池八郎

開発公社事務局長　須江吉介　課　長　兼　所　長　相沢幸男

管　理　係　桜井牧子(係長)・東城公人・田島清巳(嘱託)・関口美咲(臨職)

埋　藏　文　化　財　係　相沢幸男(係長兼務)・高村博文・林幸彦・三石宗一・須藤隆司・小山岳夫・小林真寿・羽田野卓也・翠川泰弘・竹原学・助川朋広

(調査團)

團　長　黒岩忠男(佐久考古学会副会長)

副　團　長　白倉盛男(佐久考古学会副会長)・藤沢平治(佐久市文化財審議委員)

調査担当者　高村博文・林幸彦・三石宗一・小山岳夫・小林真寿・羽田野卓也・翠川泰弘・竹原学・助川朋広

調　査　員　堺　益子

調査補助員　香山優子・小林よしみ・橋詰勝子・橋詰けさよ・綱萱ミスズ

協　力　者　長岡喜代人

3 本書の編集は高村が行い、執筆は各遺跡の担当者が担当し、報告書作成作業の箇面作成等を、香山優子・長岡喜代人が行った。

4 本書及び関係資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

目　　次

1 市内遺跡調査歴史	1
2 試掘調査結果報告	5
(1)佐久保星ヶ原遺跡 1…5 (2)石岳城跡 8 (3)長土呂遺跡群 2…11 (4)立石遺跡 14 (5)野馬久保遺跡 17 (6)上郷牛寺遺跡 26	
3 史企画調査結果報告	22
(1)大沢畠遺跡 1…22 (2)木千石平遺跡群 1…24 (3)竹村山遺跡群 1…26 (4)若尾原遺跡群 1…27 (5)赤坂前浜跡群 2…28 (6)下船塚石遺跡 1…59 (7)西近津遺跡群 1…31 (8)白山遺跡群 1…33 (9)豊久保屋敷浜遺跡 2…35 (10)宇の原遺跡群 1…37 (11)芝宮遺跡群 2…39 (12)豊後遺跡群 1…41 (13)一本柳遺跡群 1…43 (14)各津遺跡群 1…45 (15)浅井城跡 1…47	

1 市内遺跡調査概要

今年度から、国庫補助金を受けて、個人及び民間の開発に対する埋蔵文化財の保護処置を実施した。

今年度の目標としては、佐久市内の周知の遺跡内における開発に対し、文化財保護法第57条の2第1項の提出と、専門職員による現地の確認を実施し、埋蔵文化財の保護に当たることを主眼とした。

個人・民間の開発に対する情報源は、農業委員会に提出される農地転用の申請を利用した。平成2年7月から12月までの農地転用による申請者のうち、埋蔵文化財の保護処置の該当者は計65件で、平成3年1月31日現在、文化財保護法第57条の2第1項の提出は37件の約57%である。調査全対象面積は43,602.72m²で1件当たりの平均調査対象面積は670.81m²となる。月平均の農地転用申請者の埋蔵文化財保護処置を必要とする該当者件数は約10.8件である。

試掘調査を実施した遺跡は、猿久保屋敷添遺跡1・石並城跡・長土呂遺跡群2・野馬久保遺跡(以上、国庫補助金で実施)の4遺跡で、その他、農地転用以外で立石遺跡(国庫補助金で実施)と上福王寺遺跡を加えて6遺跡、21,600m²であり、詳細は後記してある。立会い調査を実施した遺跡は、計15遺跡にのぼり、調査対象面積計4,291.37m²で1遺跡当たりの平均は286.09m²である。

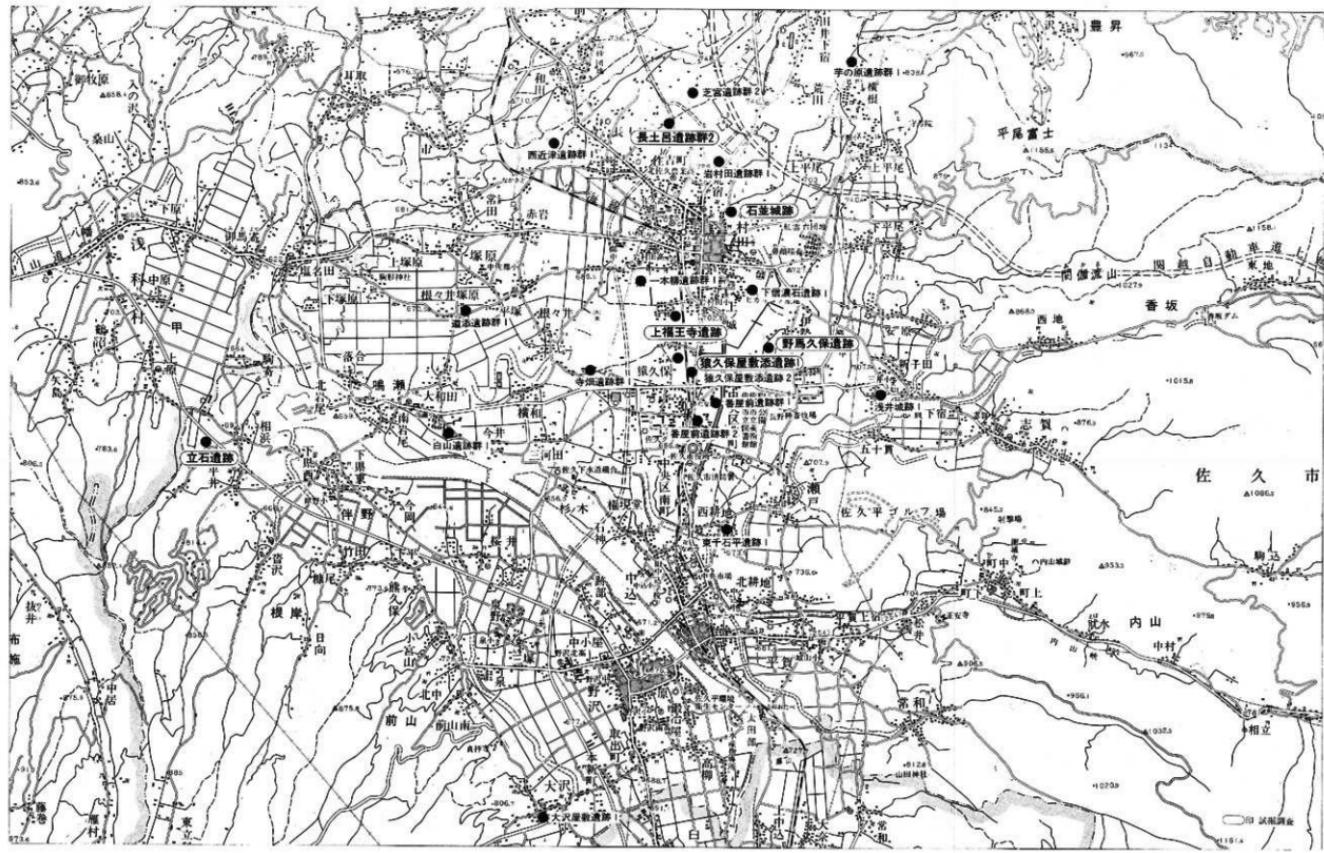
調査を実施した遺跡の分布を参照すると、千曲川右岸、佐久市北部地区に集中しており、岩村田・中込原台地の開発は、今年度実施した発掘調査遺跡と考え併せて、急激に進んでいることが伺える。

今年度から国庫補助金を利用できたことから、佐久市内の遺跡内で実施される、個人住宅を含めた開発に対し、調査が実施されたことは、今まで未調査であった遺跡の状況及び地層状態の情報が得られることと、より広範囲な市民等の遺跡に対する知識が増大し埋蔵文化財保護に対する関心を集めたことは、大きな成果であった。

今後、関越自動車道の開通、新幹線の開通等により益々開発が増大する傾向にあり、埋蔵文化財行政の体制及び保護施策の充実等に、より一層の努力が必要となろう。

平成2年農業委員会関係造跡…監査表

No.	連 駅 名	原 因 著	所在地	業 円	開発面積	造跡	57条	保護地帯	高在	調査期間	担当名
1	西防護道路群1	神津義典	長土呂 増築	113.04	○	○		立会い	未了	×	未了
2	岩村田造跡群1	片山義男	岩村田 営む店舗	158.49	○	○	立会い	新丁	H2. 10. 5	小山	
3	春風原造跡群1	秋原南太郎	春風原 住宅	501.00	○	○	立会い	新丁	H2. 10. 22	小山	
4	H・坂道群1	中藤勝貞	新子田 個人住宅	96.89	○	○	立会い	未了			
5	春風原造跡群2	柳興昇	中込 共同住宅	491.90	○	○	立会い	新丁	H2. 11. 8	小山	
6	東側道路群1	山中佛	涌戸 個人住宅	270.37	○	○	立会い	未了			
7	北上造跡群1	下桑美二	北上呂 個人住宅	68.63	○	○	立会い	未了			
8	宮ノ後造跡群1	岩井義一	岩村田 個人住宅	39.25	○	○	立会い	未了	開免後日		
9	多摩川造跡群3	ホナタ・萬葉	飯久保 車庫	1,200.00	○	○	立会い	未了			
10	範城B道跡群1	嵐山高夫	新子田 営む店舗	82.50	○	○	立会い	未了			
11	大沢駅造跡群1	木内徹	大沢 個人住宅	74.52	○	○	立会い	新丁	H2. 8. 27	高村	
12	東の宮道群1	葛谷義子	栗原 住宅	55.00	○	○	立会い	未了			
13	少子成跡群1	森吉秀男	桜井呂 個人住宅	79.33	○	○	立会い	新丁	H2. 1. 9	認用	
14	東下石子造跡群1	上原千鶴子	上原 千鶴子	54.11	○	○	立会い	新丁	H2. 9. 22	高村	
15	芝宮道跡群1	柳ヤマト	小川井 収容	225.00	○	○	立会い	未了			
16	一本木道跡群1	黒崎巳男	岩村田 個人住宅	70.38	○	○	立会い	新丁	H2. 1. 8	高村	
17	鶴見石井造跡1	鶴見井尚尚	岩村田 地盤造成	1,174.00	○	○	立会い	新丁	H2. 10. 24	小山	
18	宮之上造跡群1	柳田ヨコエンジニア	桜井呂 建設場	165.00	○	○	立会い	未了			
19	白山山頂群1	柳田徹ペニディング	今井 千歩	小畠原量介舟	275.49	○	○	立会い	新丁	H2. 11. 21	高村
20	横河石川造跡群1	佐佐木秀尚	桜井呂 個人住宅	95.26	○	○	立会い	未了			
21	神明道路跡	鶴見井尚尚	桜井呂 宅地造成	495.72	○	○	立会い	新丁	H2. 10. 18	高村	
22	下賀茂跡1	御山田原	平賀 宅地造成	726.00	○	○	立会い	未了			
23	平賀山城造跡群3	佐藤秀久	平賀 個人住宅	52.99	○	○	立会い	未了	開免後日		
24	新宮山城跡1	の山田土木	奥ノ山 建入跡	488.00	○	○	試査	未了			
25	長上・呂造跡群2	吉古田製作所	長土呂 キニスコート	706.00	○	○	試査	新丁	H2. 12. 12	小林	
26	打張跡	鶴井良徳	岩村田 地盤造成	976.00	○	○	試査	新丁	H2. 12. 13-14	高村	
27	東久保堅造跡群1	鶴見井尚尚	東久保 宅地造成	2,948.00	○	○	試査	新丁	H2. 11. 5-6	高村	
28	通浜跡	神岡虎大	聯原 個人住宅	48.13	○	○	立会い	新丁	H2. 12. 18	認用	
29	西吉野造跡群1	川手虎雄	長土呂 個人住宅	61.43	○	○	立会い	新丁	H2. 11. 8	小山	
30	当防治跡群2	カウベルエンジニアリング	長上呂 1号施設	198.00	○	○	立会い	未了			
31	復久保堅造跡群2	鶴見井尚尚	東久保 廉時武記堂	1,048.00	○	○	立会い	未了	H2. 2. 9-11	高村	
32	牛の頭造跡群1	荒井正志	横根 個人住宅	117.59	○	○	立会い	新丁	H2. 12. 8	高村	
33	唐古造跡群1	森圭京	上平尾 個人住宅	59.62	○	○	立会い	未了			
34	當田所山堅造跡群1	鷲鷹安則	厚原 工場併用住	145.74	○	○	立会い	未了			
35	豊ノ上造跡群1	横井正光	厚原 美阿子家	72.82	○	○	立会い	未了			
36	牛糞道跡1	竹内正治	原兼 仁合舍	176.00	○	○	立会い	未了			
37	江戸跡	宇武功尊	野野 個人住宅	68.31	○	○	立会い	未了			
38	新町造跡1	菊池義一	中込 事務室	147.00	○	○	立会い	未了	開免後日		
39	深谷造跡群2	原真意司	鶴見井 個人住宅	85.06	○	○	立会い	未了			
40	小賀中堅造跡群2	日辰穀業	平賀 沢尻地	55.08	○	○	立会い	未了			
41	大間造跡1	心地勢利	内山 個人住宅	96.92	○	○	立会い	未了			
42	神坂造跡群1	鶴見井	大内作左兵	236.30	○	○	立会い	未了			
43	高岡市造跡群1	佐久保義雄	新子田 加工場等	628.86	○	○	立会い	未了			
44	芝坂造跡群2	森義美	長土呂 個人住宅	74.97	○	○	立会い	新丁	H2. 12. 14	翠原	
45	茅毛坂造跡群1	木下鉄	岩村田 加工場等	1,204.00	○	○	立会い	未了	H2. 12. 26	助川	
46	藤原坂群1	与志本林業	常田 加工場等	18,236.00	○	○	試査	未了			
47	浅井坂群1	中野義	新子田 事務室等	62.21	○	○	立会い	新丁	H2. 1. 10	竹原	
48	大間造跡2	萩原信義	内山 個人住宅	100.65	○	○	立会い	未了			
49	荒久保堅造跡群3	荒船開元	猪俣 売地造成	350.00	○	○	立会い	未了	H2. 1. 9	翠原	
50	金田所山堅造跡群2	竹野陽子	厚原 丸井作右兵等	481.56	○	○	立会い	未了			
51	常用若川堅造跡群3	大間川開発	翠原 宅地造成	58.29	○	○	立会い	未了			
52	地塚ノ道跡群1	遠藤元弘	安原 個人住宅	96.81	○	○	立会い	未了			
53	野馬久保造跡群1	与志本林業	前山 所有者等	2,931.00	○	○	試査	新丁	H2. 12. 25-26	羽田田	
54	江戸跡1	金井とくよ	野野 人宅	134.35	○	○	立会い	未了			
55	中道造跡1	日木源彌	前山 所有者等	540.00	○	○	立会い	未了			
56	中原造跡群1	大工原 大夫	中込 個人住宅	91.09	○	○	立会い	未了			
57	中及造跡群1	土屋千代四郎	兼戸 個人住宅	67.97	○	○	立会い	未了			
58	新町造跡2	柳沢光夫	平賀 個人住宅	71.77	○	○	立会い	未了			
59	口折子造跡群2	竹内義・武人	取田 個人住宅	210.40	○	○	立会い	未了			
60	源坂造跡群2	高橋千鶴子	小川井 事務所等	241.93	○	○	立会い	未了			
61	奥上・呂造跡群3	柳川承販会	長土呂 施設等	1,294.00	○	○	立会い	未了			
62	中原造跡群2	樋口玲華	三河原 個人住宅	72.08	○	○	立会い	未了	H2. 2. 11	高村	
63	野沢坂群1	上田用金原	鬼塚 営む事業	140.00	○	○	立会い	未了			
64	中原造跡群3	高野豊昭	中込 販賣事業	90.00	○	○	立会い	未了			
65	中原造跡群4	宮川俊	中込 個人住宅	139.27	○	○	立会い	未了			
		計		43,602.72							
		平均		670.81							



市内遺跡調査位置図（1：50,000）

2 試掘調査結果報告

(1) 猿久保屋敷添遺跡1

所 在 地 佐久市大字猿久保字屋敷
添448外

調査原因者 光和建設株式会社

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成2年11月5・6日

面 積 2,948m²

調査担当者 高村博文



猿久保屋敷添遺跡1位置図 (1 : 10,000)

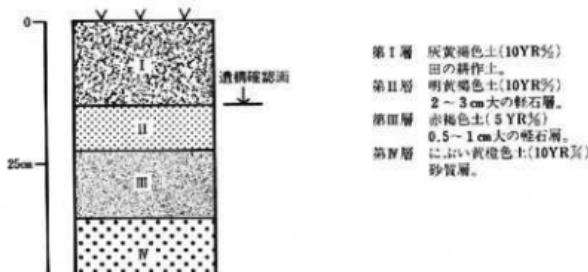
経過と立地

猿久保屋敷添遺跡は、佐久市大字猿久保に所在し、標高687~688mを測る。立地的には、湯川により形成されたと考えられる中込原台地を大きくえぐり込む形の淀みの第2河岸段丘上に位置している。遺跡の内容については、佐久市遺跡詳細分布調査報告書を参照すると、弥生~平安時代の遺構の存在が予想される。

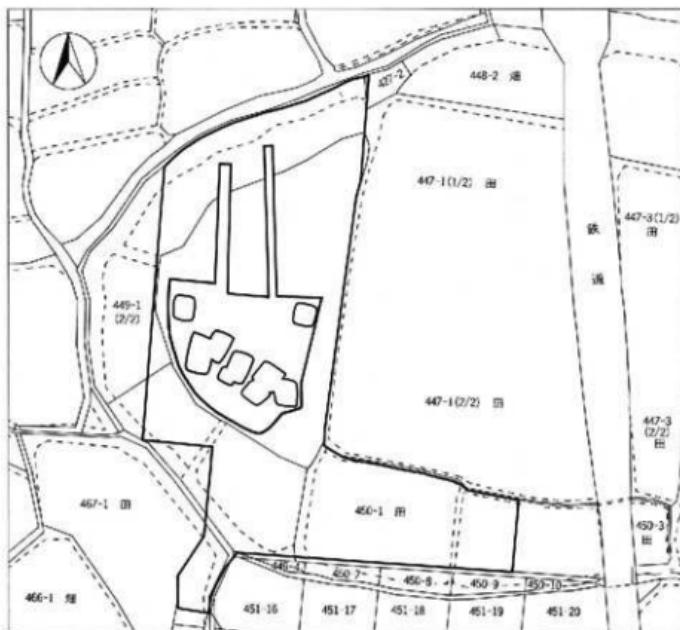
今回、光和建設株式会社が行う宅地造成事業にともない、試掘調査を実施して遺跡の確認をする必要が生じた。

調査結果

試掘調査の結果、表土1層約30cm下にローム層が検出され、ローム層を切り込んで住居址と思われる落込みが9棟確認された。遺物は、土師器小片が数点発見され古墳時代から平安時代の集落と考えられる。



猪久保屋敷添遺跡Ⅰ 基本上層模式図



猪久保屋敷添遺跡Ⅰ 試掘調査全体図 (1:1,000)

宅地造成は、50cm以上の埋め土で実施することが確認されたため、遺構の破壊はなく保存されることとなった。

以上の調査結果から、この地域は未調査であったが、小海線沿線の中込原台地の一段低い湯川左岸第2段丘上に確実に古代の集落が検出されたことは大きな成果であった。



遺跡近景（南方より）



試掘調査全景（南東より）

(2) 石並城跡

所在地 佐久市大字岩村田字石並

3503外

調査原因者 森泉建設工業株式会社

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成2年12月13・14日

面積 976m²

調査担当者 高村博文



石並城跡位置図 (1 : 10,000)

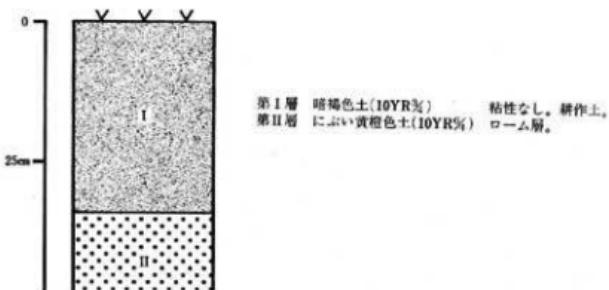
経過と立地

石並城跡は佐久市大字岩村田地籍に所在し、標高716~726mを測る。城跡は蛇行しながら南流する湯川の西岸の第2段丘上に北から石並城跡・王城跡・黒岩城跡とほぼ直線的に南北に連なって大井城跡を形成している。大井城跡は佐久市有数の城跡であり、王城跡・黒岩城跡は県の史跡に指定されている。当教育委員会は、この石並城跡をなんとか現状保存することを考え、一度は宅地造成の計画を長野県文化課と共に協議し開発を思い止どすことができたが、再度、森泉建設工業株式会社により開発の計画が持ち上がった。

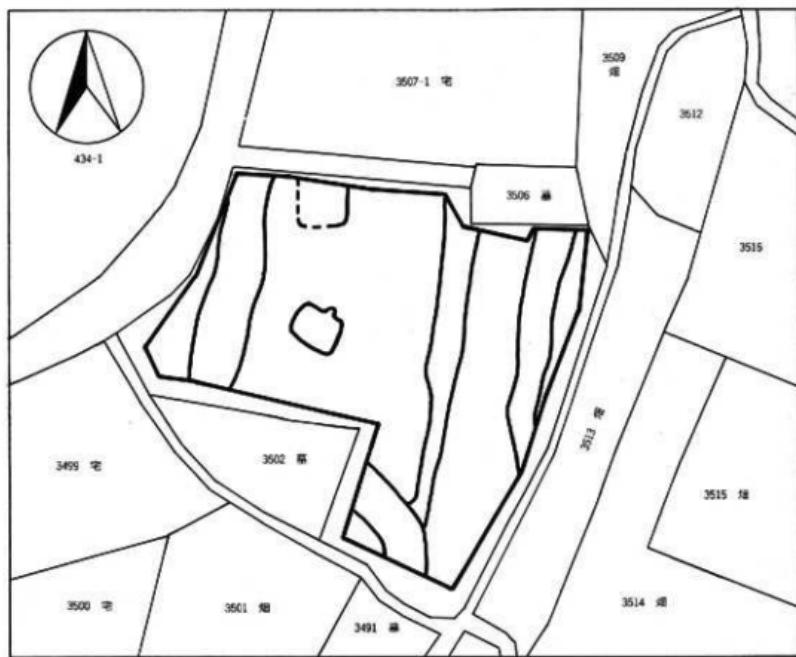
今回、森泉建設工業株式会社が計画している宅地造成地区は、石並城跡の外郭に当たるものと考えられる。また、当該地は岩村田遺跡群内に含まれていることから弥生時代から平安時代の遺構の存在している可能性もたかく、国庫補助金で全面試掘を実施し、遺構の存在が判明した場合は改めて保護処置を再協議することとなる。

調査結果

宅地造成地域は、南北に伸びる堀の隣接した西側976m²にわたり、深さ37cm内外の表土(1層)を取り除くとローム層(II層)が検出された。調査範囲内からは、竪穴住居址2棟、南北に伸びる堀2条、東から西へ北方に湾曲する堀1条、南北に伸びる溝1基(試掘調査全体図参照)



石並城跡基本土層模式図



石並城跡試掘調査全体図 (1 : 500)

が検出され、石並城跡に間違した遺構及びそれ以前の集落址の存在が確認された。

以上のことから、森泉建設工業株式会社と再度保護協議を実施し、記録保存することが決定した。



道路近景（南東より）



試掘調査全景（南東より）

(3) 長土呂遺跡群2

所 在 地 佐久市大字長土呂字上大
林168-11

調査原因者 株式会社吉田製作所

開発事業名 テニスコート造成

調査期間 平成2年12月17日

面 積 700m²

調査担当者 小林真寿



長土呂遺跡群2位置図 (1:10,000)

経過と立地

長土呂遺跡群は、佐久市大字長土呂地籍に所在し、浅間山に源を発する渦川の浸蝕による田切り地形南側の標高720~760mの段丘上に展開する大遺跡群である。

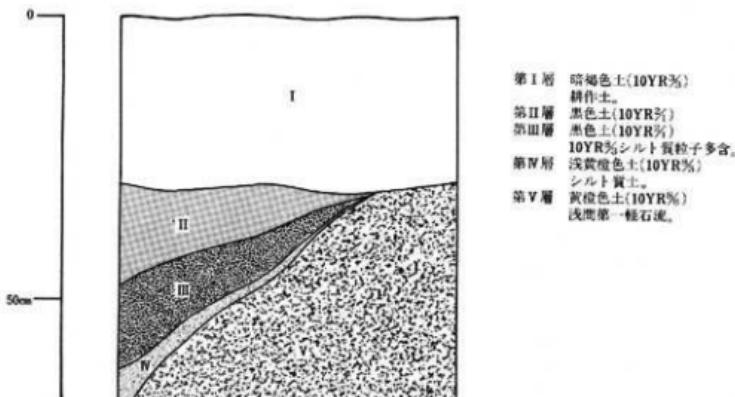
今回、当遺跡群内の上大林遺跡の一部分を埋め立てて、テニスコートを造成する計画が吉田製作所より提出されたため、当該地も埋蔵文化財の保護・保存を図るために試掘調査を実施した。

なお、調査地は昭和63年度に国道141号線改良事業にともない佐久市教育委員会が調査を実施した上大林遺跡に隣接する。

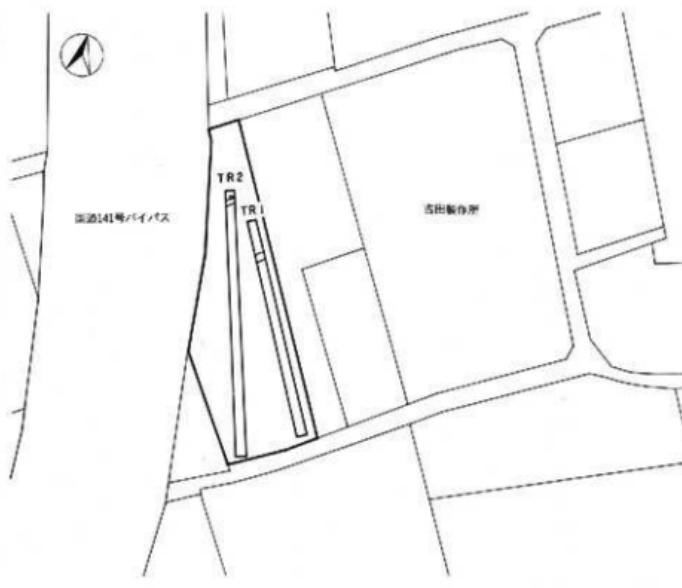
調査結果

当該地は北西から南東に向かって緩やかに傾斜しており、南東側にはシルト質の黒色土がローム層と表土（耕作土）の間層として堆積しており、トレンチの東南端では地表面から1m下げてもローム層に達せず、低地であったものと考えられる。

遺構は、溝跡2条とピット1基が検出されたものの住居址は存在しなかった。遺物は、土師器の小片が1片出土したのみである。なお、テニスコート造成は盛り土により行うもので、地下の造構に影響を及ぼさないが、試掘調査を実施して、遺構の存在の有無を確認した。



長土呂遺跡群2基本土層模式図



長土呂遺跡群2試掘トレンチ設定図 (1 : 1,000)



遺跡近景（北方より）



TR 1 全景（北方より）



TR 2 全景（北方より）

(4) 立石遺跡

所在地 佐久市大字根岸字荻原

4103-1外

調査原因者 荻原地区土地整備組合

開発事業名 荻原地区土地整備事業

調査期間 平成2年12月18日

面積 2,290m²

調査担当者 竹原学



立石遺跡位置図 (1:10,000)

経過と立地

立石遺跡は佐久市大字根岸地籍に所在し、標高676~705mを測る。立地的には蓼科山西北麓の丘陵末端部付近、佐久盆地を見おろす位置にある。

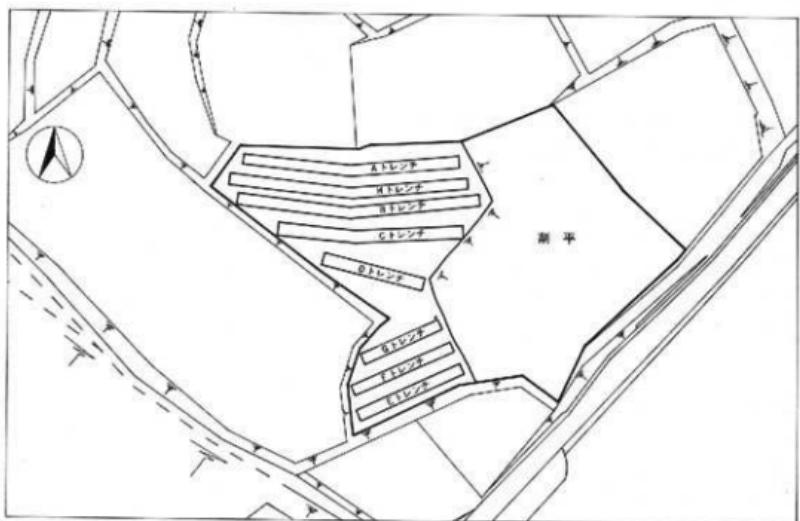
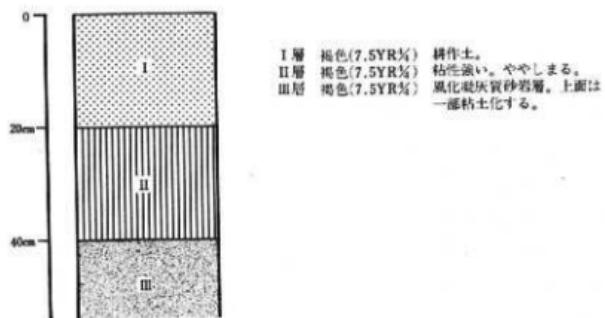
遺跡の内容については、佐久市遺跡詳細分布調査報告書によれば縄文時代の遺物が採集されている。また近接して石附窯址群をはじめとする古代生産遺跡が分布しており、注意される。

今回、荻原地区土地整備組合により遺跡地を含めた一帯21,000m²の農地整備が計画された。このうち2,290m²が今年度事業の対象となり、試掘調査を実施して遺跡の確認をする必要が生じ、調査の結果、遺構が確認された場合は再協議することとなった。

調査結果

試掘調査の結果、地表下約40cmで風化岩盤（相浜層）に達し、この面で遺構確認を行った。しかし、一点、黒曜石片が出土した他はなんら遺構・遺物が確認されず、当該地は遺跡の範囲から外れるものと解釈された。

しかしながら、先に触れたように周辺において生産関係の遺跡の存在が予想され、今後注意すべき遺跡と言えよう。





遺跡全景（東南より）



遺跡全景（東南より）



遺跡全景（南方より）



A トレンチ全景（南東より）



C トレンチ全景（南方より）

蛇塚B遺跡群

(5) 野馬久保遺跡

所 在 地 佐久市大字新子田字野馬

久保1928-2

調査原因者 与志本林業株式会社

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成2年12月25・26日

面 積 2,831m²

調査担当者 羽毛田卓也



野馬久保遺跡位置図 (1:10,000)

経過と立地

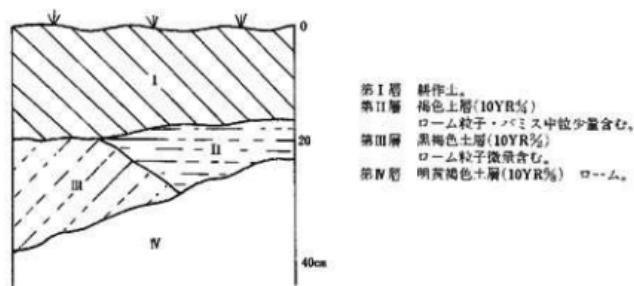
蛇塚B遺跡群野馬久保遺跡は、佐久市大字新子田地籍に所在し、昭和54・58年度に調査した蛇塚B遺跡に隣接する。本遺跡は標高705~706mを測り、東内池より南下西進する田切りと湯川段丘に挟まれた帯状台地の南傾斜する微高地上に位置する。また、西側には南北に走る低地が存在し、その低地端の微高地上で、佐久市遺跡詳細分布調査報告書を参照すると、平安時代の集落址の存在が予想される。

今回、与志本林業が行う宅地造成にともない、試掘調査を実施し、遺構の存在が確認された場合は、保護処置について再協議することになった。

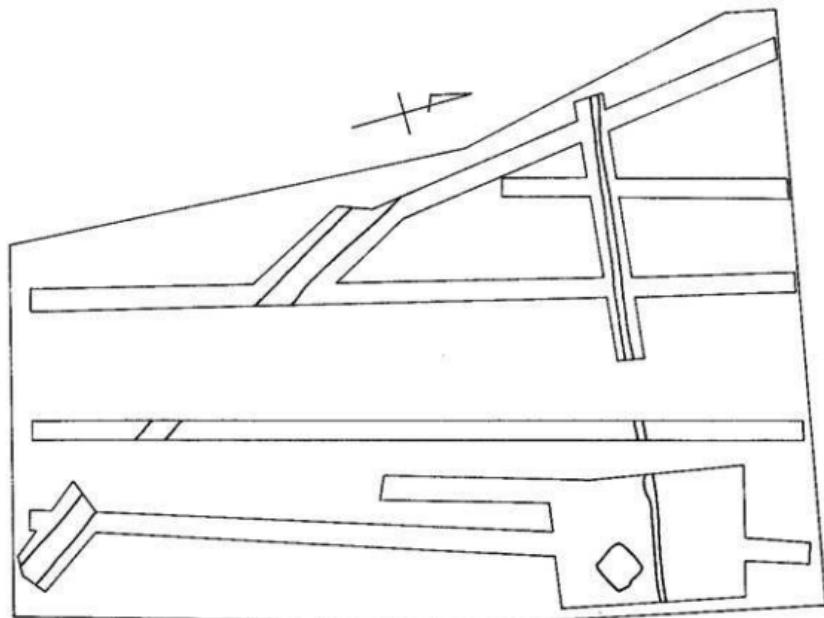
調査結果

試掘調査の結果、ローム層上面において、平安時代の住居址1棟と時代不明の溝状造構が2条確認された。遺物は造構確認面より、縄文時代中期の浅鉢片、平安時代の甕・壺・灰釉陶器片等が出土した。このことから、蛇塚B遺跡の調査によって確認された平安時代の集落が、本遺跡まで広がっており、予想以上の大集落であったことがうかがえる。

以上の調査結果から、与志本林業と再協議を実施し、記録保存することになった。



野馬久保遺跡基本土層模式図





遺跡全景（南方より）



西側トレンチ全景



中央トレンチ全景



東側トレンチ全景



北側トレンチ全景

一本柳遺跡群

(6) 上福王寺遺跡

所在 地 佐久市大字岩村田字上福

王寺2208外

調査原因者 小林建設工業株式会社

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成2年4月16日

面 積 11,755m²

調査担当者 林 幸彦



上福王寺遺跡位置図 (1:10,000)

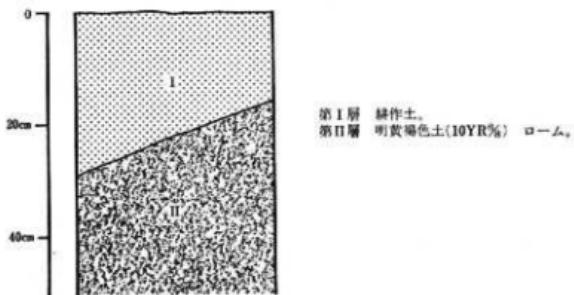
経過と立地

上福王寺遺跡は、湯川に臨んだ台地上にあり標高691~700mを測る。付近には、上の城遺跡・北一本柳遺跡・東一本柳遺跡・東一本柳古墳などがある。本遺跡からは、弥生・古墳・奈良・平安時代の遺物が出土している。また、かつては古墳も數基存在していたといわれており、東一本柳古墳共ども古墳群を形成していたと思われる。さらに、付近には福王寺と呼ばれる寺が存在していたといわれている。今回、小林建設工業が行う宅地造成にともない、試掘調査を実施して遺構の確認をする必要が生じた。

調査結果

対象地は、湯川に面した斜面であるため、住居址等の遺構の存在の可能性は薄い。試掘調査の結果、表土の30cm下に黄褐色ローム層が確認された。表土は、斜面の下位ほど厚い。この表土層から、弥生時代後期・古墳時代の土器片が出土した。

住居址・土坑などの遺構は確認されなかった。ただ、幅3m程の溝が検出されたが、これの性格は不明である。当初、古墳の残存遺構が予想されたが、今回の調査では確認されなかった。対象地の最下部は、湯川の河岸段丘に接する地点であるが、腐食土と思われる黒褐色土の堆積が厚くみられた。



上福王寺遺跡基本土層模式圖



上福寺遺跡試掘トレンチ設定図（1：1,500）

3 立会い調査結果報告

(1) 大沢屋敷遺跡1

所在 地 佐久市大字大沢字大沢

997

調査原因者 木内徹

開発事業名 個人住宅建設

調査期間 平成2年8月27日

面 積 74.52m² (362m²)

調査担当者 高村博文



大沢屋敷遺跡1位置図 (1:10,000)

経過と立地

大沢屋敷遺跡1は、佐久市大字大沢地籍に所在し、標高691~707mを測る。立地的には西山から東方へ流れる大沢川が北側に存在し、遺跡は西から東方へなだらかな傾斜をもつ台地である。

遺跡の内容については、佐久市遺跡詳細分布調査報告書を参照すると縄文時代と古墳時代の遺構の存在が予想される。

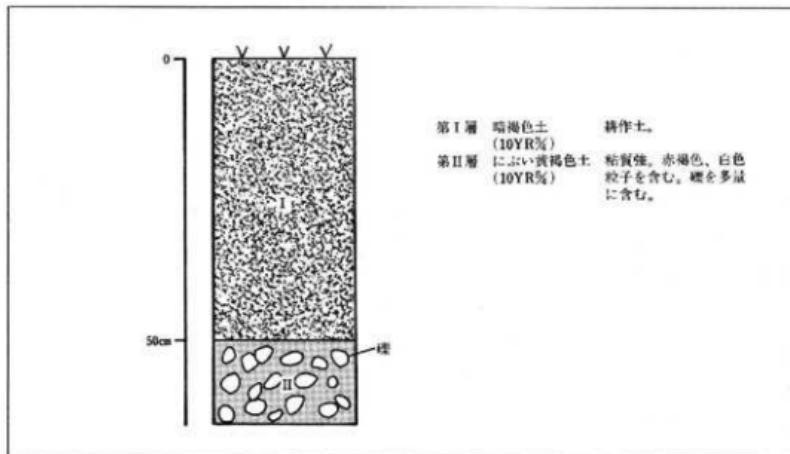
今回、木内徹氏が行う住宅建設により立会い調査を実施することとなった。

調査結果

基礎部分の掘削は、幅約100cm、深さ65cm内外で行われた。確認の結果、西側部分において約50cmの耕作土の下からII層であるにぶい黄褐色土層が検出され、遺構が確認されるとすれば、この面の可能性が高い。この層には径3cm内外の礎が多量にあり、あるいは大沢川の氾濫により形成されたものかも知れない。東側部分の掘削は、地形が低くなっていることから、II層まで達し

なかった。

大沢屋敷遺跡内での調査は、初めてであったが遺構・遺物は検出されなかった。



大沢屋敷遺跡 1 基本土層模式図



遺跡近景（東方より）



掘削近景（西方より）

(2) 東千石平遺跡群1

所在地 佐久市大字漸戸字東千石

平1558-12

調査原因者 土屋今朝美

開発事業名 個人住宅建設

調査期間 平成2年9月22日

面 積 54.11m² (247m²)

調査担当者 高村博文



東千石平遺跡群1位置図 (1 : 10,000)

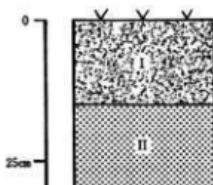
経過と立地

東千石平遺跡群は、佐久市大字漸戸地籍に所在し、標高669~671mを測る。遺跡の南方には、志賀川が北方からほぼ直角に北流から西流し、滑津川と合流する地点に位置し、志賀川により形成された第2河岸段丘上に展開している。その北方には昭和40年度発掘調査を実施した深堀遺跡が存在するが、本遺跡群内の調査ははじめてであり、佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると古墳時代から中世の遺構の存在が予想される。

今回、土屋今朝美氏が行う住宅建設により立会い調査を実施することとなった。

調査結果

基礎部分の掘削は幅約100cm、深さ30cm内外で行われた。確認の結果、表土（I層）を約15cm程取り除くとII層の黒褐色土が検出され、この層から数片の土師器が出土した。今回の掘削では、遺構の検出はみられなかったものの、付近には古墳時代から平安時代の遺構の存在する可能性が非常に高い。



第Ⅰ層 暗褐色土：耕作土。
(10YR 5/6)
第Ⅱ層 黒褐色土：粘質有り。赤褐色粒子を多少
(10YR 5/6) 含む。土師器を含む。土器包
含層の可能性高い。

東千石平遺跡群基本土層模式図



遺跡近景（西方より）



遺跡全景（南西より）

(3) 岩村田遺跡群1

所在地 佐久市大字岩村田字黒地
蔵161-1

調査原因者 井出雅男

開発事業名 貸し店舗・駐車場建設

調査期間 平成2年10月15日

面積 158.4m² (1,099m²)

調査担当者 小山岳夫



岩村田遺跡群1位置図 (1:10,000)

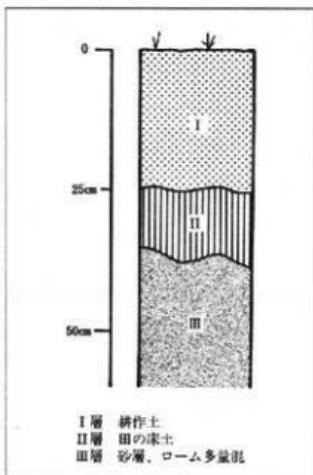
経過と立地

岩村田遺跡群は浅間山麓南斜面に幾筋も発達する細長い「田切り」台地上に立地する。ここは弥生から平安時代においては佐久平有数の集落遺跡を、また、東側には鎌倉から安土・桃山時代にかけて北佐久に勢力をふるった大井宗家が居とした大井城跡を、更に現代では商業的な繁華街を内包する等、古代から現代に至るまで佐久平で最も人工の多い中核的な役割を担った土地でもある。

今回、井出雅男氏が行う貸し店舗・駐車場建設に伴う立会い調査地点は標高731m内外で、当遺跡群を縦貫する浅い谷部分に当たる。

調査結果

貸し店舗建設が行われる敷地内に長さ15m、幅1.5m、深さ30~40cmの試掘溝を3条掘削し遺構の存否の確認を行ったが、遺構・遺物ともに確認されなかった。なお、調査地点の基準層序は右上図の通りである。



基本土層模式図

(4) 番屋前遺跡群 1

所在地	佐久市大字猿久保字番屋 前900-1
調査原因者	荻原廣太郎
開発事業名	共同住宅・駐車場建設
調査期間	平成2年10月22日
面積	501m ² (1,174m ²)
調査担当者	小山岳夫



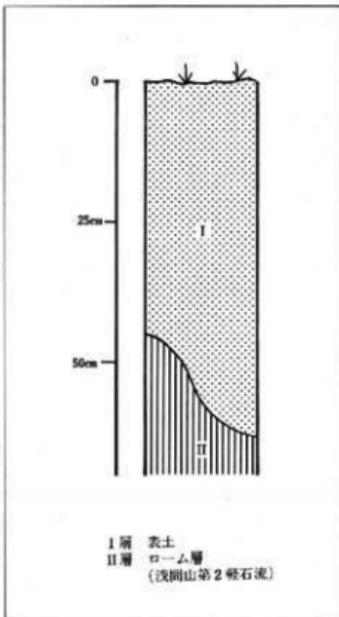
経過と立地

番屋前遺跡群は湯川左岸の第3段丘上に位置し北側直下の第2段丘面には猿久保屋敷添遺跡がある。弥生・平安時代の遺物の散布地とされるが、過去の調査例が少なく、実態究明は今後の調査進行に委ねられるところが大きい。

今回、荻原廣太郎氏が行う、共同住宅・駐車場建設に伴う立会い調査地点は標高695m内外である。

調査結果

共同住宅建設地、基礎工事部分に長さ40m、幅120cmの試掘溝を東西方向に二本掘削する。北部試掘溝は深さ45cm内外、南部試掘溝は65cmで、浅間山の軽石層に達する。確認の結果、遺構・遺物とも検出されなかった。



(5) 番屋前遺跡群2

所在地 佐久市大字中込字東大堀
手前3174-1外
調査原因者 柳沢昇
開発事業名 共同住宅・駐車場建設
調査期間 平成2年11月8日
面積 491.9m² (801m²)
調査担当者 小山岳夫



番屋前遺跡群2位置図 (1:10,000)

経過と立地

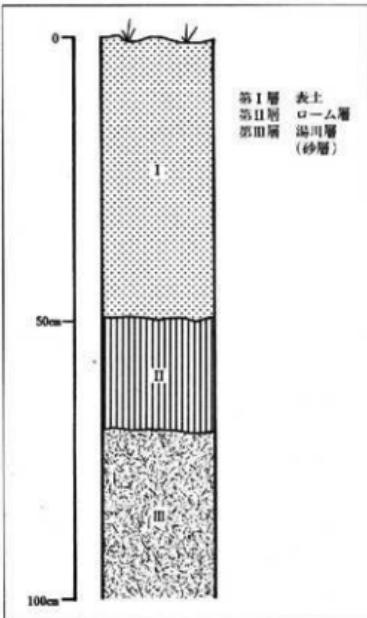
立地については番屋前遺跡群1と同じ。

今回、柳沢昇氏が行う、共同住宅・駐車場建設にともなう立会い調査地点は標高691m内外である。

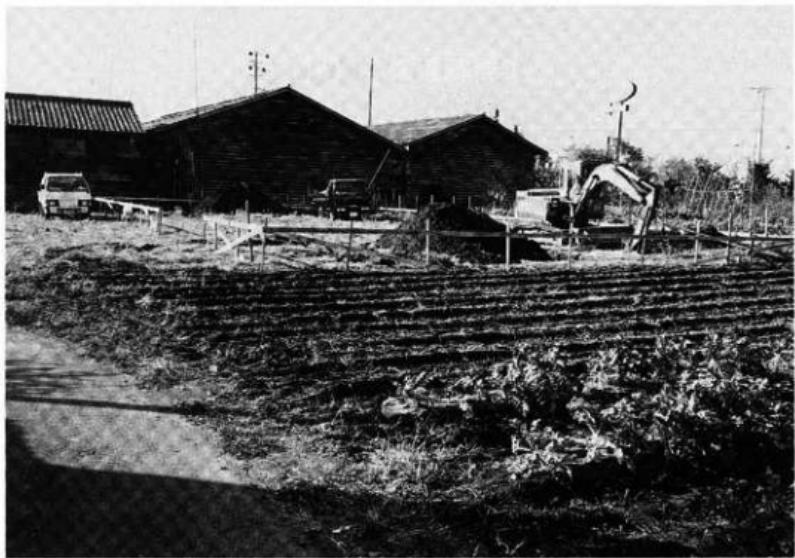
調査結果

建物建設地の基礎部分5カ所に関して3m×3mのマス掘りを行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。

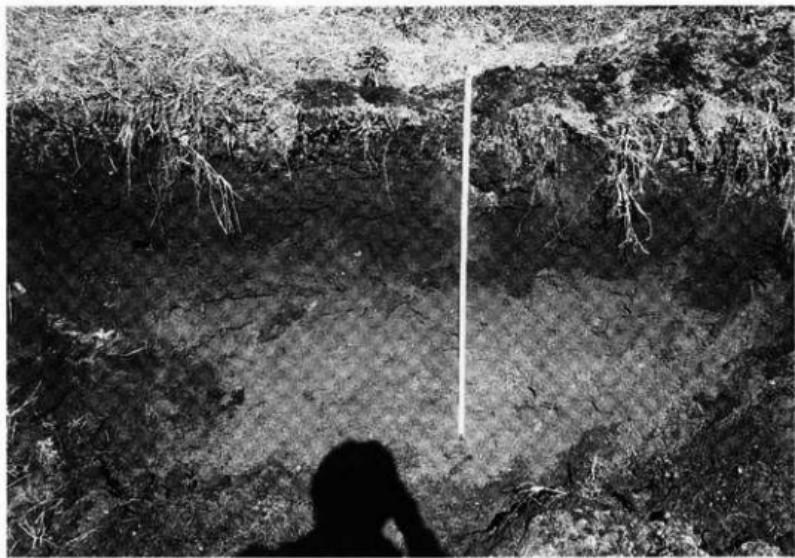
基準層序は右図の通りである。



基本土層模式図



遺跡近景（東方より）



上層断面

(6) 下信濃石遺跡1

所 在 地 佐久市大字岩村田字仁王
前337外
調査原因者 石井商会株式会社
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成2年10月24日
面 積 1,174 m²
調査担当者 小山岳夫



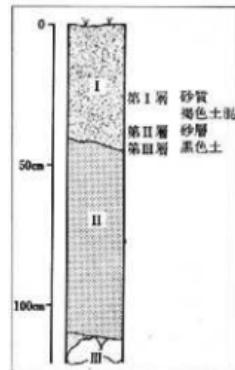
下信濃石遺跡1位置図 (1:10,000)

経過と立地

下信濃石遺跡は湯川右岸の第2段丘上に立地し、西側直上には弥生から平安時代集落の一大密集地である上の城遺跡群が存在する。平安時代遺物の包蔵地とされるが、実態は不明確である。今回、石井商会が行う宅地造成にともなう立会い調査地点は第2段丘面の基部に当たり、標高は690m内外である。

調査結果

開発地1,174 m²の内、台地直下、段丘面基部の削平地区に面して、幅2.5m、深さ1.3m内外の試掘溝を東西方向に3本掘削する。地表から1.1mまでは砂層(I・II層)、以下は径20cm内外の黒色火山弾を多量に含む黒色土(III層)。従って、当地は火山弾降下時に湿地であった可能性が大である。その後は湯川の氾濫等により、砂の流入が著しかったと推定される。遺構・遺物は検出されなかった。



基本土層模式図

(7) 西近津遺跡群1

所在 地 佐久市大字長土呂字西近
塚1751-11
調査原因者 川手歳和
開発事業名 個人住宅建設
調査期間 平成2年11月8日
面 積 61.43m² (206m²)
調査担当者 小山岳夫



西近津遺跡群1位置図 (1:10,000)

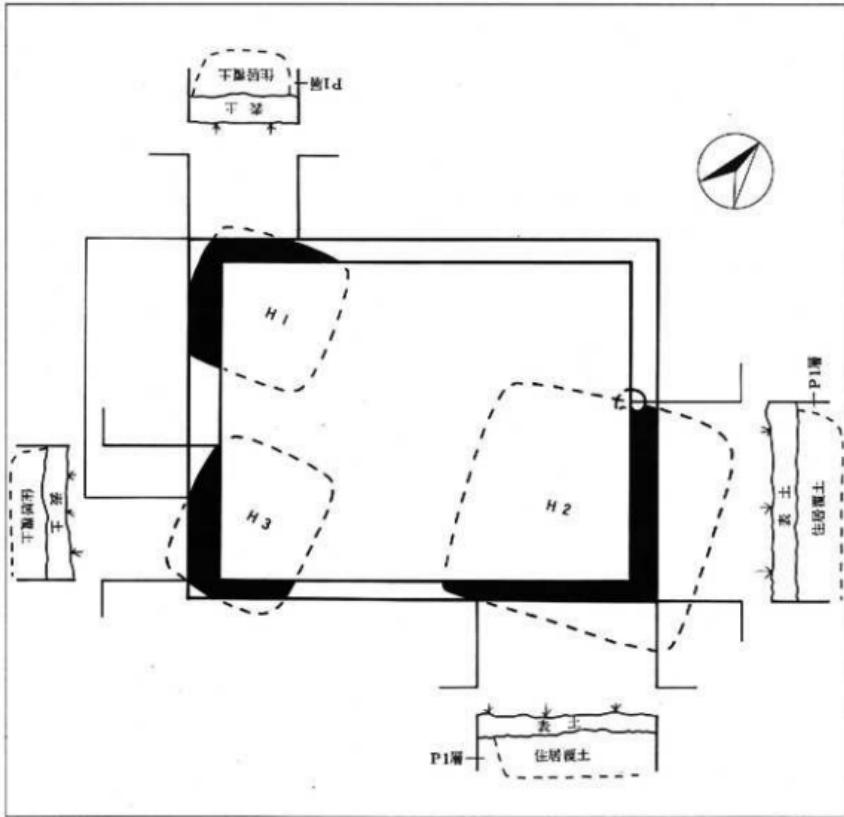
経過と立地

西近津遺跡群は浅間山麓南斜面に幾筋も発達する細長い「田切り」台地上に立地する。ここは弥生から平安時代において佐久平有数の集落遺跡を内包することが市内遺跡詳細分布調査や過去の発掘調査で知られている。

今回、川手歳和氏が行う、住宅建設とともに立会い調査地点は、標高710m内外である。

調査結果

建物基礎部分の全周 (1,007×643cm) を幅100cmで80cm内外振削。確認の結果、少なくとも3棟の竪穴住居址が確認される。遺構確認面より10cm内外の破壊が危惧されるものの、大方は現状保護される状況にあると判断されるため、範囲確認・記録を行って、本調査は後世に託すことにする。この地点、及び周辺は大規模な集落址が内包されていることは自明であり、今後、重点的に保護処置を行う体制を整備する必要性を強く感じる。なお、微量の出土遺物からではあるが、図示したH1に関しては奈良・平安時代、H2は古墳時代後期、H3は弥生時代の竪穴住居址と考えられる。



西近津遺跡群1調査全体略図（1：100）



振削近景（東方より）



H₂検出状況（東方より）

(8) 白山遺跡群1

所在 地 佐久市大字今井字下原

758

調査原因者 信濃ベンディング株式会
社

開発事業名 事務所兼倉庫建設

調査期間 平成2年11月21日

面 積 275.4m² (763m²)

調査担当者 高村博文



白山遺跡群1位置図 (1:10,000)

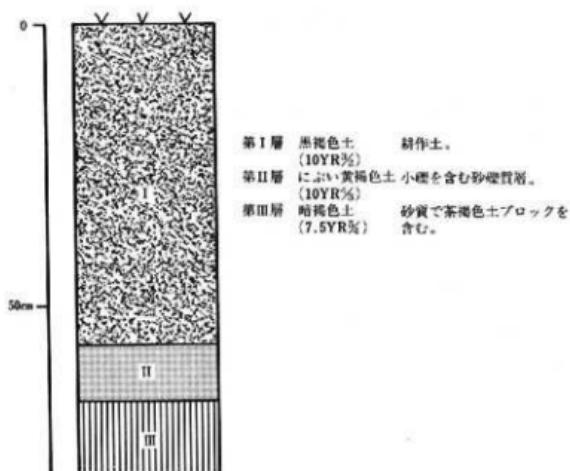
経過と立地

白山遺跡群は佐久市大字今井地籍に所在し、標高648~670m付近を測る。遺跡群は千曲川・湯川・滑津川に分断された中込原台地の最西端に位置し、南方の断崖は千曲川により形成された第1河岸段丘上から比較差20数mを測る。遺跡の東方には昭和49年度発掘調査を実施した今井西原遺跡が存在するが、本遺跡内での調査ははじめてであり、佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると縄文時代から平安時代の遺構の存在が予想される。

今回、信濃ベンディング株式会社が行う事務所兼倉庫の建設により立会い調査を実施することとなった。

調査結果

基礎部分の掘削は、深さ67cm内外で行われた。表土（I層）を57cm程取り除くとローム層が現れ、このローム層は二層に分層できる。遺構が検出されるとすればI層（表土）下、II層上面と考えられるが、遺構・遺物の検出はみられなかった。



白山遺跡群 1 基本土層模式図



遺跡近景（北方より）



遺跡近景（西方より）

(9) 猿久保屋敷添遺跡2

所在地 佐久市大字猿久保字星敷
添454-1外

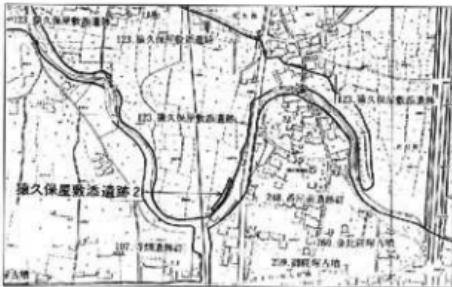
調査原因者 株式会社朝倉・佐久電気
・金井ふみ子

開発事業名 資材置き場・擁壁建設

調査期間 平成2年12月8日

面積 1,048m²

調査担当者 高村博文



猿久保屋敷添遺跡2位置図 (1:10,000)

経過と立地

猿久保屋敷添遺跡の立地については、猿久保屋敷添遺跡1と同じである。

今回、株式会社朝倉外が行う資材置き場・擁壁建設にともない、湯川左岸第3段丘直下、第2段丘上を埋め土して開発することになり、立会い調査を実施することになった。

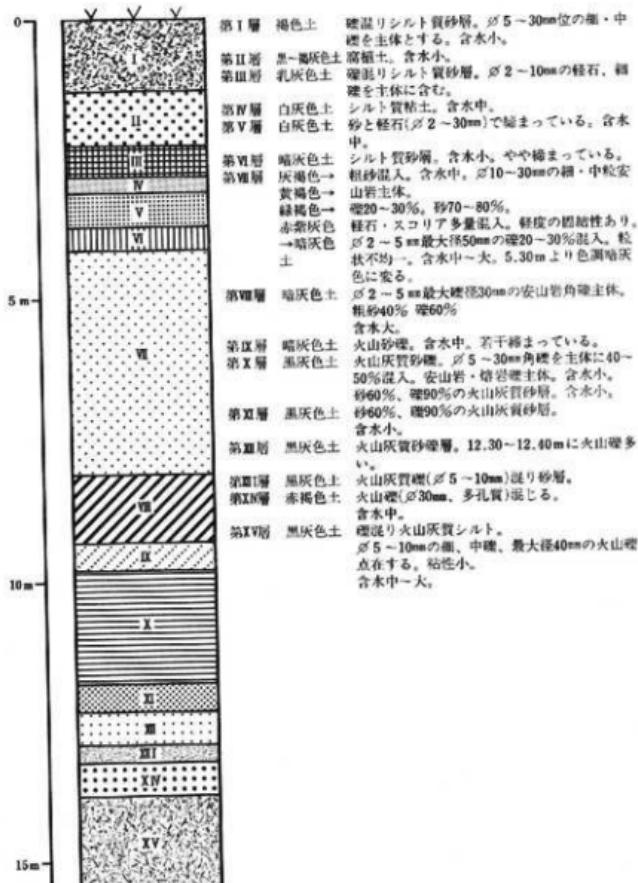
調査結果

擁壁を建設するにあたり、株式会社朝倉は、地質調査を関東地質株式会社に依頼して、ボーリング調査を実施した。㈱朝倉社長朝倉輝代司氏の好意により貴重なその地質調査結果をお借りして基本土層模式図に示した。



遺跡近景（西北より）

調査結果によると、上部4m以浅は河川堆積物の砂・粘土を、4m以深には浅間軽石流の礫混じり火山砂を主とする火山碎屑物に占められており、地下水位面は地表下1.3mに認められている。



猪久保尾敷添道路2基本土層模式図

(10) 芋の原遺跡群1

所 在 地 佐久市大字横根字十二平

1172-4

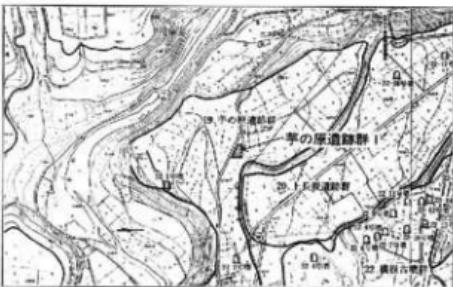
調査原因者 渡辺圭司

開発事業名 個人住宅建設

調査期間 平成2年12月9日

面 積 117.59m² (979m²)

調査担当者 高村博文



芋の原遺跡群1位置図 (1:10,000)

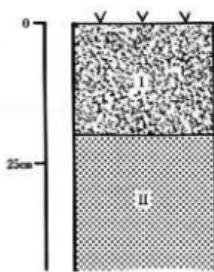
経過と立地

芋の原遺跡群は、佐久市大字横根地籍に所在し、標高735～739mを測る。遺跡の北方には湯川が西流し、遺跡群を圍むように流路を南方に変えており、湯川左岸の第2河岸段丘上に位置している。遺跡群と湯川の対面には、昭和63年度・平成元年度発掘調査を実施した金井城跡が存在するが、本遺跡群内の調査ははじめてで、佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると縄文時代から平安時代の遺構の存在が予想される。

今回、渡辺圭司氏が行う住宅建設により立会い調査を実施することになった。

調査結果

基礎部分の掘削は、幅約100cm、深さ54cm内外で行われた。確認の結果、表土約20cmを取り除くとⅡ層の黒褐色土層が検出され、土師器の小片が出土した。今回の掘削では、遺構の検出はみられなかったものの、付近には、古墳時代から平安時代の遺構の存在する可能性が高い。



第Ⅰ層 暗褐色土 耕作上。
(10YR 2/6)
第Ⅱ層 黒色土 小礫を含み、ふかふかしている。
(10YR 1/1)

芋の原遺跡群基本土層模式図



(11) 芝宮遺跡群 2

所在 地 佐久市大字長土呂字上芝

宮771-6

調査原因者 森泉英

開発事業者 個人住宅建設

調査期間 平成2年12月14日

面 積 74.97m² (330m²)

調査担当者 萩川泰弘



芝宮遺跡群 2位 演図 (1 : 10,000)

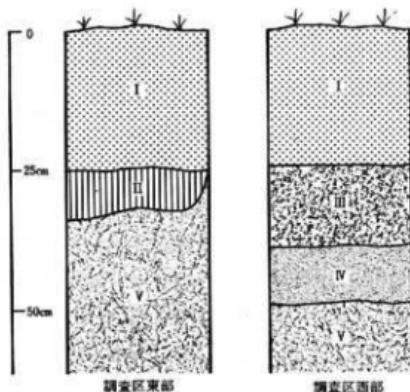
経過と立地

芝宮遺跡群2は、佐久市大字長土呂に所在し、標高740m内外を測る。この地帯は、佐久市北半部の地表を形成している火山灰砂軽石（P1）が堆積しているため、水の浸食に弱く火山山麓特有な“田切り地形”が発達している。過去、遺跡群内では三回（昭和54・55・57年度）の調査が実施されているが、遺構は検出されず、縄文から平安時代の断片的な遺物が出土している。

今回、森泉英氏による住宅建設とともに、立会い調査を実施して遺跡の確認をする必要が生じた。

調査結果

宅地造成は、東方から西方へ傾斜する現況地形の東南部を削平して水平面を構築し、基礎部分に深さ70cmまでトレンチをいれる方法が用いられたが、この掘削範囲内においては、遺構・遺物は確認されなかった。当台地の対岸には700棟もの住居址が確認された聖原遺跡が存在する。外見上さしたる差異の無いこの様な両台地の利用状況の相違は、古代人の生活様式ならびに当台地の古環境を知る上で興味深く、今回の調査は重要な意義をもつものであった。



第Ⅰ層 黒褐色(10YR 5/2)砂質土層。畑地耕作土。
♂ 5mm内外の砂利を含む。
第Ⅱ層 暗褐色(10YR 4/2)砂質土層。I・V層の混
合土。♂ 2~5mmの大バニスローム粉末
を含む。
第Ⅲ層 黒色(10YR 1/2)きめ細かい砂質土層。
バニス粉末を含む。
第Ⅳ層 暗褐色(10YR 4/2)砂質土層。♂ 10mm内外の
バニス・ローム粉末を含む。漸移層。
第Ⅴ層 明黄褐色(10YR 6/2)砂質土層。♂ 3~10mm
の大バニスを含む。ローム層(P1)。塩原
古地のP1に比べ砂質性に富む。

芝宮遺跡群 2 基本土層模式図



遺跡遠景（南方より）



遺跡近景（東方より）



基礎工事作業状況（東方より）



基礎掘り下げ終了状況（東方より）

(12) 道添遺跡 1

所 在 地 佐久市大字塚原字道裏
2384-1

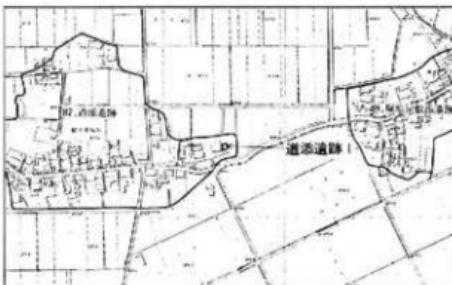
調査原因者 神岡信夫

開発事業名 個人住宅建設

調査期間 平成2年12月18・19日

面 積 48.13m² (115m²)

調査担当者 萩川泰弘



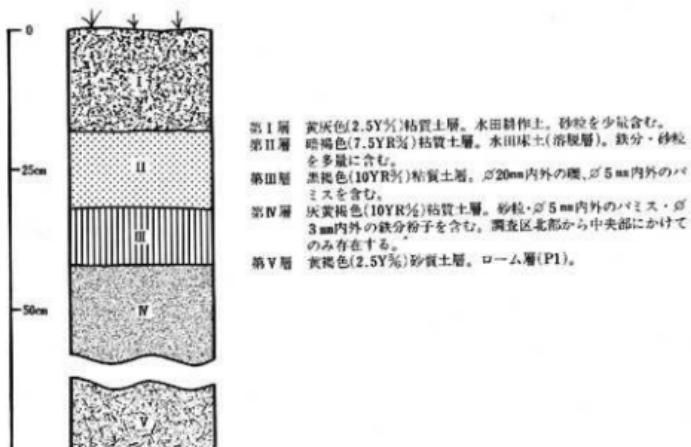
経過と立地

道添遺跡は、佐久市大字塚原に所在する。地質学的成因により二分される南北佐久平の北部に位置し、浅間山麓末端の標高675m内外を測る台地上に立地している。西方には孤塚古墳が存在し、また、遺跡の中央部を旧中山道が通過すると共に周囲には古寺院が散見される等、歴史的な由緒が薫ることも見逃せない。

今回、神岡信夫氏による住宅建設に伴い、立会い調査を実施して埋蔵文化財の確認をする必要が生じた。

調査結果

基礎の掘り下げは、現況地表より約40cmの深さまで行われたが、造構・遺物は皆無であった。しかしながら、既済の土場整備事業による掘削が比較的浅くローム層まで到達していない箇所が看取されたこと、ならびにローム層上に人工的攪拌の施されていない自然堆積土が確認されたことは、今後の調査に極めて重要な示唆を与えてくれたものと考えられる。



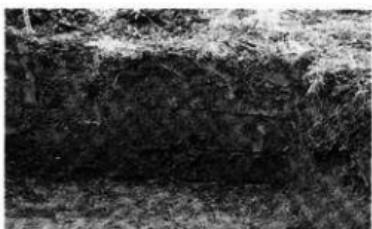
道添遺跡基本土層模式図



遺跡遠景（南方より）



遺跡近景（北方より）



基本土層（調査区北端）



基礎掘り下げ終了状況（南方より）

(13) 一本柳遺跡群1

所在 地 佐久市大字岩村田字上樋
田1820-4

調査原因者 篠谷恒男

開発事業名 個人住宅建設

調査期間 平成3年1月8日

面 積 70.38m² (232m²)

調査担当者 三石宗一



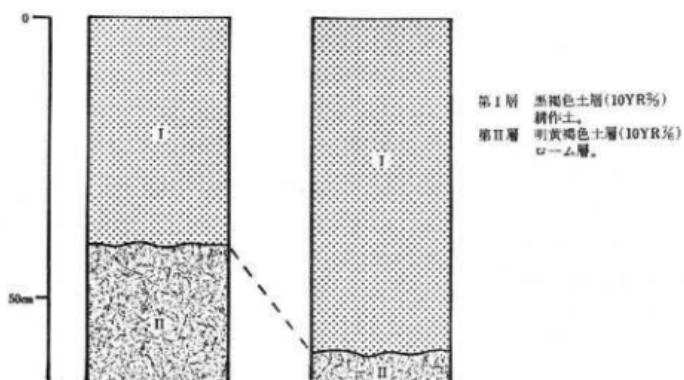
経過と立地

一本柳遺跡群は佐久市大字岩村田地籍に所在し、標高693m付近を測る。立地的には、本遺跡の南方、西方に向かって蛇行する湯川右岸の台地上に位置している。本遺跡群内における発掘調査は、昭和43年度東一本柳遺跡、昭和47年度北一本柳遺跡、昭和46年度東一本柳古墳がおこなわれ、弥生時代から平安時代の住居址が検出された。また、西方に隣接する北西ノ久保遺跡では昭和57・60年度に発掘調査が実施され、弥生時代中期の住居址を中心とした多数の遺構が検出された。

今回、篠谷恒男氏が行う住宅建設にともない立会い調査を実施することとなった。

調査結果

立会い調査の際に行われた基礎工事は、幅約50cm、表土から60cmの深さで掘り下げを行い、その結果、表土1層は東端部で約40cmを測り、西方に行くにしたがって徐々に深くなり、西端部で約60cmを測り、一部ローム面まで達しない部分もあった。調査の結果、検出されたローム層上においては遺構の存在は認められず、遺物の出土も見られなかった。しかし付近の発掘調査例を考慮すると今回の調査区周辺には弥生から平安時代の遺構が多数存在しているものと考えられる。



一本柳遺跡群1基本土層模式図



遺跡近景（南方より）



遺跡近景（北方より）



掘削近景（西方より）



掘削近景（南方より）

(14) 寺畠遺跡群1

所 在 地 佐久市大字根々井字寺畠

385-2

調査原因者 森泉辰男

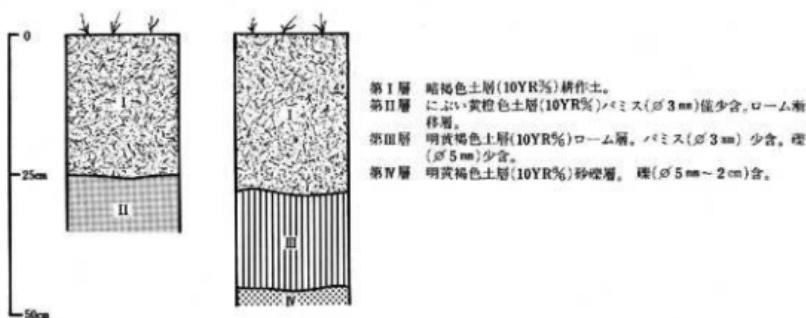
開発事業名 個人住宅建設

調査期間 平成3年1月9日

面 積 79.33m² (724m²)

調査担当者 助川朋広





寺細道路群1基本土層模式図



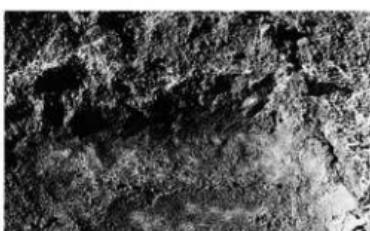
道路近景（南方より）



掘削近景（東方より）



掘削近景（西方より）



土層断面

(15) 浅井城跡 1

所 在 地 佐久市大字新子田宇丑ケ
久保832-1

調査原因者 中野道

開発事業名 資材倉庫建設

調査期間 平成3年1月10日

面 積 62.21m² (254m²)

調査担当者 竹原 学



浅井城跡 1 位置図 (1 : 10,000)

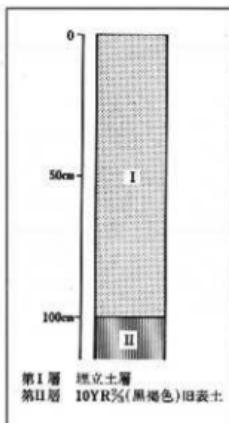
経過と立地

浅井城跡は、佐久市大字新子田地籍に所在し、標高698~714m付近を測る。立地的には香坂川右岸の段丘末端にのる小丘陵上から段丘面に位置する。佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると、中世城郭の伝承地とされ、また、戸坂遺跡群（弥生～中世）にも含まれている。

今回、中野道氏が行う資材倉庫建設にともない、立会い調査を実施することとなった。

調査結果

立会い調査の結果、当該地は田切り地形（堀？）の中に位置しており、現地表面下1mまで近年の埋め立て層がみられた。この面で旧表土（黒褐色）が確認されたが、工事による掘削はこれ以下に及んでいないため、遺構・遺物は検出されなかった。



基本土層模式図



遺跡全景（南方より）



土層断面

長野県佐久市

市内遺跡発掘調査報告書1990

1991年3月

編集・発行者 佐久市教育委員会

印 刷 所 信毎書籍印刷株式会社
